

ホホバ 頒布会便り



発行
毎月一回
ホホバ頒布会

謹んで新春の

お慶びを申し上げます

本年も、皆様の毎日が、

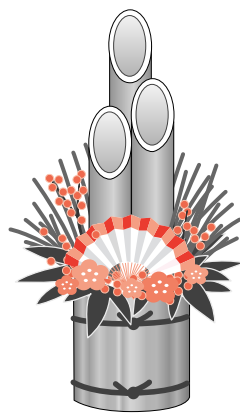
心身ともにお健やかに

幸多き年となりますよう

心よりお祈り申し上げます

令和 四年 元旦

寅



新年あけましておめでとう
ございます。

今年も、皆様のお健やかな
毎日のため、頒布会スタッフ
一同、より良い品を真心を込
めてお届けしてまいりますの
で、どうぞ変わらぬご愛顧を
宜しくお願い申し上げます。

「お年玉」は
いつから始まった？

お正月といえば、おせち料
理やお雑煮を食べ、皆で楽し
む福笑いや羽根つき等、お正
月ならではの遊びも色々あり
ますが、子供たちの楽しみと

いえば、やはりお年玉。

お正月の年始の挨拶も、近
年は直接訪ねる事は少なくな
りましたが、子世帯が孫を連
れて帰省してきたり、知り合
いのお子さん等、急に必要に
なった時のためにポチ袋を準
備してある、というお宅も多
い様です。

子供達の喜ぶ顔を思い浮か
べて、お年玉を準備しておく
のも楽しい作業ですね。

実はこのお年玉、ポチ袋に
お金を入れて渡す習慣は、昭
和三十年代のはじめぐらいか
らと言われています。

今回は、この「お年玉」に
まつわるあれこれ、その意味
や由来、いわれや歴史等から、
ポチ袋や最近のお年玉事情等
についてご紹介します。

お正月のお年玉。元々は、 お金ではなくお餅だった!!

日本のお正月には欠かせない「お年玉」。

ご年配の方の中には、子供の頃はお金ではなく、お餅やおもちやを貰ったという方もいらっしゃるかもしれません。

今回は、お年玉の意味や歴史、今どきのお年玉事情等についてご紹介いたします。

お年玉は御歳魂？

お年玉の起源は古く、元々は、年末年始に五穀豊穡を祈りまつた神様である歳徳神（歳神様）が松の明けに帰られる際、丸餅に魂を込めて下さり、そのお餅を家長が家族や奉公人に分け与えていたのが始まりといわれています。↘



呼び名については、歳神様の魂を「としまま」とした説、一年の最初に賜るので「年賜（としまま）」とした説など、諸説あります。

古くから、金品を分け与える事もあった様ですが、主流は当時希少価値のある餅でした。

子供には、お餅の他、おもちゃ等をあげていたという事です。↘



今の様に、ポチ袋にお金を入れて渡す、という習慣は、戦後の高度経済成長の時期、昭和三十年代に入ってから始まりました。

団塊の世代が生まれて家族数が増え、都市部の世帯数も増えたことよって、それぞれの家で餅について歳神様に供える事が減り、代わりに手軽に準備できるお金になった、と↘



いわれています。

お年玉のマナー

お年玉を渡す時は、お札は三つ折りにし、ポチ袋に表を上に入れて入れるのがマナーとされています。できればピン札が良いですが、必ず、といった事は無く、手持ちのお札でも大丈夫です。

また、もともとは家長が家族や奉公人へと配分していたお年玉ですから基本、上司や年上の家族には贈らないというのもマナーです。上司や目上の方のお子さんがいらした場合は、迷ってしまう時には現金は避けて、



図書カード等の商品券で代用すると良いでしょう。

ポチ袋

ポチ袋とは、小さな祝儀袋の通称で、お年玉だけでなく、大入り袋として使ったり、ちよつとした心付けやご祝儀等にも使われます。元々は、明治時代に旦那衆が、鼻唄の芸者さんや店の人に心付け

【令和時代の お年玉事情】

最近では、なかなか会えないお孫さん等に、キャッシュレスお年玉を使う方もいるようです。

スマートフォンで決済で
ペイペイ ラインペイ
きるPayPayやLINEPay・アマゾンギフト等は、オンラインで贈れるので手間いらずです。

できれば直接渡して喜ぶ顔が見たいものですが、新しい便利なものにも挑戦してみるのも良いかもしれませんね。



を渡すために使われたのが始まりで、「これっぽち」という控えめな意味と、関西地方の方言で「小さい」「少しだけ」という意味も。

毎年、年末になるときれいな絵のついたものや変わった形のもものが色々あり迷ってしまいますね。決まったルールは無く、送り主の好みで選んだもので大丈夫ですが、複数にあげる場合には、名前を書くスペースがあるものが便利です。